

【問合せ先】

令和元年10月21日

島根県病害虫防除所 担当：奈良井・小塚

TEL：0853-22-6772

FAX：0853-24-3342

令和元年度 病害虫発生予察情報 特殊報第2号

令和元年10月21日
島根県病害虫防除所

本県において、ツマジロクサヨトウの雄成虫がフェロモントラップで確認されたので特殊報を発表します。

- 1 病害虫名 ツマジロクサヨトウ
- 2 学名 *Spodoptera frugiperda* (J.E.Smith)
- 3 発生地域 県東部地域
- 4 発生経過

国内への侵入が確認され、本県において侵入警戒のため、県東部地域に設置したフェロモントラップに本種疑義成虫が誘殺されているのを令和元年10月16日に発見した(写真1)。

農林水産省神戸植物防疫所に同定依頼したところ、10月18日に本県未発生のツマジロクサヨトウ(雄成虫)であることが確認された。

なお、誘殺後にフェロモントラップ周辺における農作物の被害及び本種幼虫の寄生について調査したが、いずれも確認出来なかった。

5 国内における発生状況

国内では、令和元年7月3日に鹿児島県の飼料用トウモロコシで初めて確認され、その後、熊本県、宮崎県、長崎県、沖縄県、大分県、佐賀県、高知県、茨城県、岡山県、福岡県、千葉県、山口県、愛媛県、福島県、神奈川県、三重県、広島県、大阪府の19府県で現地ほ場での発生が確認されている。

このほか、徳島県、兵庫県、愛知県でもフェロモントラップにおいて雄成虫が誘殺され、特殊報が発表されている。

6 形態及び特徴

- 1) 成虫は開張約37mm、雌雄で外観が大きく異なり、雄のみ前翅中央部に白斑を持つ(写真2)。終齢幼虫は体長約40mmで、頭部複眼の網目模様と頭部縫合線に沿って淡色になるため、この部分が逆Y字状に見えることが特徴である(写真3)。卵は寄主植物に塊状に産み付けられ、雌の体毛で覆われる。
- 2) 国内での報告で幼虫の寄生が確認された植物は飼料用トウモロコシ、スイートコーン、ソルガム、サトウキビに限られるが、その他のイネ科、アブラナ科、ウリ科、キク科、ナス科、ナデシコ科、ヒルガオ科、マメ科など広範囲の作物に寄生することが知られている。
- 3) 農作物を加害するのは本種幼虫であり、成虫が加害することはない。
- 4) 本種は、暖地に適した種(南北アメリカ大陸の熱帯～亜熱帯原産)であり、熱帯では年4～6世代発生する。南北アメリカでは毎年夏季に成虫が移動・分散するが、暖地を除く地域では越冬することはできないとされている。

7 防除対策

- 1) 国内では幼虫が飼料用トウモロコシ、スイートコーン、ソルガムで多く見つかることから、これらの作物については特にほ場を見回り、早期発見に努める。
- 2) 本虫と疑われる幼虫を発見した場合には、速やかに島根県病害虫防除所まで連絡する。
- 3) 県は、本虫による加害が確認された場合、植物防疫法第29条第1項に基づく措置を行うこととし、国との協議により、加害が確認された作物ごとに選定した薬剤による散布の指導を行う。
- 4) 薬剤散布が困難な場合は、加害作物を早期に刈り取るとともに、幼虫の分散を防ぐため、ほ場内での残渣のすき込みを行う。

8 連絡先

島根県病害虫防除所(農業技術センター病虫科：0853-22-6772)

9 参考資料



写真1 フェロモントラップに誘殺されたツマジロクサヨトウ雄成虫



写真2 ツマジロクサヨトウ雄成虫(左)及び雌成虫(右)、植物防疫所HPより引用



写真3 ツマジロクサヨトウ幼虫、植物防疫所資料より引用